

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

《理工農系》

●広島大学生物圏科学研究科

「食料・環境系高度専門実践技術者養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・サブセメスター制(1年4学期制)を導入することにより、2単位16回の講義科目を1単位8回に変更し、多様な受講形態を可能とした。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・従来の講義科目を「専門基礎科目」、「専門科目」、「実践科目」に分類し、学生が目指す方向性(スペシャリスト型あるいはゼネラリスト型)に応じたステップアップ型の受講形態が可能になるようにした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・平成20年度の授業科目数が104科目あったのに対し、サブセメスター制導入後の平成21年度では184科目となり、授業科目数をほぼ倍増することができ、多様な到達目標に対応するカリキュラム体系が構築できた。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

B. 円滑な学位授与の促進

⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

《理工農系》

●広島大学生物圏科学研究科

「食料・環境系高度専門実践技術者養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・ステップアッププログラムのプロセス管理を行う eラーニングポートフォリオ (教育記録システム) の開発と運用を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・学生と主・副指導教員が ICT (information and communication technology) を用いて、Web 上で講義の履修状況、研究の進捗状況などを常に記録・確認できるように、また到達の省察を学生自身が行い、学生の省察に対する教員コメントも記録できるようにした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・大学院教育における到達目標の設定およびその査察のシステムを稼働させ、大学院教育の質を保證するシステムが構築できた。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

《理工農系》

●広島大学生物圏科学研究科

「食料・環境系高度専門実践技術者養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・学生の国際会議等での発表およびインターンシップに対して支援を行い、学生による研究活動の国際性および主体性を涵養した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・支援を受ける学生には本研究科で採用している外国人特任教員によるプレゼンテーション法の演習講義を受講すること、また国際学会発表・インターンシップ派遣支援を受けた学生には、成果報告書の提出と支援成果報告会での発表を義務付けた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・本G P支援により、3年間で国際会議等の発表に45人を、インターンシップに8人を派遣することができた。